

令和4年度保護林モニタリング調査結果一覧表

NO.	計画区	名称	保護林区分	保護林番号	面積(ha)	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	5年の要素	二ホンジカ	実施間隔 (年)	結果概要			
1	八溝多賀	小川ブナ	希少個体群保護林	希少15	103.51	○					○											○	キ：シカ侵入の影響	○	5	・ブナやミズナラ、コナラ及びシラカンバに鳥獣害や病虫害は確認されず、概ね健全に生育していた。 ・保護対象種のシラカンバが衰退傾向にある096-11について、シラカンバ成木の生育状況に留意しながら、モニタリング調査を継続していく必要がある。 ・当保護林周辺の地域は二ホンジカ生息分布のフロントラインといわれているため、二ホンジカによる影響に留意する。		
2		八溝山ツガ・ダケカンバ	希少個体群保護林	希少20	29.49	○					○												○	キ：シカ侵入の影響	○	5	・冷温帯性林を構成するブナやミズナラに鳥獣害や病虫害は確認されていないが、高齢で樹勢が衰退傾向にある立木が多い。 ・保護対象種の実生や稚樹が確認されていないため、今後の生育状況に留意しながらモニタリング調査を継続していく必要がある。 ・当保護林周辺の地域は二ホンジカ生息分布のフロントラインといわれているため、二ホンジカによる影響に留意する。	
3	鬼怒川	小田代湿原	希少個体群保護林	希少23	69.28	○					○												○	キ：湿原植生のため	○	5	・湿原構成種の出現数や被度群度が前回調査よりも減少し、また、低木が成長しており、乾燥化の傾向がみられた（調査範囲が木道沿いのためと考えられる）。 ・林内部の調査プロットについては、過年度の調査写真と比較し、ササ丈が高くなっており、分布範囲も増加している。保護林範囲がシカ防護柵に覆われているため、柵の効果により二ホンジカによる被害を防止できている影響と考える。 ・湿原全体の状況を把握するためのモニタリング調査についても検討し、実施する必要があると考える。	
4		唐沢コメツガ	希少個体群保護林	希少24	57.08	○					○													○	オ：鳥獣害	○	5	・保護対象種のコメツガ及びシロヤシオ等はシカ防護ネットにより単木防護されているので、二ホンジカによる被害は受けておらず健全に生育していた。 ・二ホンジカによる採食圧が強く、防護ネットによる対策がされていない立木への被害や林床植生の植被率の減少が危惧されることから、今後も二ホンジカによる影響に留意しながらモニタリング調査を継続していく必要がある。
5		光徳ミズナラ	希少個体群保護林	希少28	24.28	○					○													○	オ：鳥獣害	○	5	・二ホンジカによる食害の影響により、低木層、草本層が乏しい。 ・保護対象種であるミズナラの大径木については健全に生育しているが、次世代を担う実生や稚樹の生育はほとんど確認されなかった。 ・二ホンジカによる採食圧が強く、防護ネットによる対策がされていない立木への被害や林床植生の植被率の減少が危惧されることから、今後も二ホンジカによる影響に留意しながらモニタリング調査を継続していく必要がある。
6		千手ヶ原ミズナラ・ハルコシ	希少個体群保護林	希少30	98.95	○					○													○	オ：鳥獣害	○	5	・シカ防護柵内に設置されている029-2以外のプロットについては、継続的にシカによる食害の影響が見られ、林床には忌避植物であるシロヨメナが繁茂している状況であった。 ・保護対象種及び次世代を担う保護対象種の稚樹や実生の生育状況については、保護対象種の大径木については概ね健全に生育していたが、次世代を担う稚樹や実生についてはシカ柵内のプロット(029-2)内で僅かに確認できた程度であった。 ・森林管理署への聞き取り調査では課題点として、防鹿柵の改修を順次行わなければ、保護林内の植生や更新木が衰退される状況であるが、対策を講じる予算が不足している状況が挙げられている。
7		戦場ヶ原湿原	希少個体群保護林	希少31	174.68	○					○													○	キ：湿原植生のため	○	5	・湿原内の構成種や被度群度について大きな変化は見られず、外来種等の侵入や乾燥化の影響も見られないことから、概ね良好な状態で維持されていると評価される。 ・湿原全体の状況を把握するためのモニタリング調査についても実施し、次回調査時も調査時期を合わせて植物種の組成や被度群度の変化に留意しながら調査を継続していく必要がある。
8		高原山イラモミ	希少個体群保護林	希少32	90.89	○					○													○	オ：鳥獣害	○	5	・次世代を担うイラモミの実生は僅かに確認されたが、シカの採食圧が強く、林床植生はほとんどみられなかった。 ・前回調査時に、シカ被害等により枯損していた立木については、今回調査では倒木しているものもみられ、新たな剥皮害も確認された。 ・二ホンジカによる採食圧が強く、林床植生の生育が僅かであった。二ホンジカによる被害を継続的に受けている状況のため、防護対策の検討をするとともに、今後の保護林の状況に留意しながらモニタリング調査を継続していく必要がある。
9		茶ノ木平ウラジロモミ	希少個体群保護林	希少33	81.43	○					○													○	オ：鳥獣害	○	5	・ウラジロモミの実生等は僅かに確認されたが、林床植生への二ホンジカによる被害が著しい。 ・二ホンジカによる被害を継続的に受けている状況のため、防護対策の検討をするとともに、今後の保護林の状況に留意しながらモニタリング調査を継続していく必要がある。
10		竜頭の滝カラマツ遺伝資源	希少個体群保護林	希少36	12.98	○					○													○	オ：鳥獣害	○	5	・二ホンジカによる林床植生への被害が著しく、次世代を担うカラマツは確認されなかったが、生育しているカラマツについては概ね健全に生育していた。 ・方形区の植生調査結果について、植被率に変化は見られないが、シロヨメナが占める割合が増えており、二ホンジカによる被害を継続的に受けていることがわかる。
11		山梨東部	諏訪森アカマツ	希少個体群保護林	希少85	10.79	○					○												○	オ：病虫害(マツ枯れ・ナラ枯れ)	○	5	・保護対象種のアカマツは、マツ枯れ防止対策の樹幹注入が行われているものの、前回調査と比較して大きな変化は認められない。 ・ナラ枯れの発生にも留意する。 ・次世代を担うアカマツの実生が確認されていないため、マツ枯れの被害状況も含め、今後の遷移の動態に留意しながらモニタリング調査を継続していく必要がある。
12		天竜	岩岳山アカヤシオ・シロヤシオ	希少個体群保護林	希少67	199.39	○					○												○	オ：鳥獣害	○	5	・保護対象種のシロヤシオとアカヤシオについては健全に生育しているが、実生等が僅かしか確認されておらず、二ホンジカの影響により林床植生が乏しい状況であった。 ・二ホンジカによる採食圧が強く、二ホンジカによる被害を継続的に受けている状況のため、防護対策の検討をするとともに、今後の保護林の状況に留意しながらモニタリング調査を継続していく必要がある。
13	コガネ沢ブナ・イヌブナ		希少個体群保護林	希少68	28.21	○					○	[資料]												○	オ：鳥獣害	○	5	・今年度以降、通行状態が改善され次第、現地調査を実施する。資料調査や聞き取り調査を引き続き実施し、保護林の状況把握を継続する。
14	川上ツガ・ハリモミ		希少個体群保護林	希少69	54.03	○					○	[一部資料]												○	オ：鳥獣害	○	5	・保護対象種のツガ及びハリモミは概ね健全に生育していたが、林床植生に二ホンジカの食害による影響が著しくみられ、保護対象種の稚樹や実生は確認されなかった。 ・今年度以降、調査間隔に従い、詳細調査を実施する。資料調査や聞き取り調査を引き続き実施し、保護林の状況把握を継続する。
15	瀬尻ホソバシャクナゲ		希少個体群保護林	希少72	21.20	○					○													○	オ：鳥獣害	○	5	・保護対象種であるホソバシャクナゲについては概ね健全に生育しており、保護林内に実生等も確認した。 ・二ホンジカによる食害の影響により、林床植生が乏しい。 ・二ホンジカによる被害を継続的に受けている状況のため、防護対策の検討をするとともに、今後の保護林の状況に留意しながらモニタリング調査を継続していく必要がある。
16	鬼怒川	緑の回廊 日光線	回廊4	10,122.39						○													○	オ：鳥獣害	○	5	・今年度実施した森林概況調査では、前回調査時に引き続き、二ホンジカの影響による被害が確認され、林床植生も食害により乏しい状況にある。病虫害については確認されていない。 ・平成24年度に実施された緑の回廊モニタリング調査結果と比較して、大きな変化は見られず、低木層から草本層の植被率が低いことは依然変わっていない。	

※5年の要素

ア：遷移の途中段階にある保護林

イ：復元を行っている保護林

ウ：保護対象の個体群の持続性に問題がある保護林

エ：保護林外部からの影響を受けている保護林

オ：鳥獣・病虫害被害が顕著にある保護林

カ：温暖化により影響が顕著にある保護林

キ：その他、短期間で大きな変化が想定される保護林